



EMBASSY OF THE REPUBLIC OF THE UNION OF MYANMAR, TOKYO



NEWSLETTER VOLUME NO. 2

DATED: 1st March 2025

No.	表 題
1.	ミャンマー連邦共和国国防安全保障会議 (1/2025) 開催
2.	国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官 連邦政府業務調整会議に出席しスピーチを表明
3.	マンダレー宮殿の西壁にあるシーシェー門近くにオリジナルの構造そのままに再建されたシーシェー橋の開通式開催
4.	連邦レベルの中小零細企業 (MSME) 製品展示会およびコンテストの調整会議を開催
5.	タン・スエ副首相兼外務大臣 中華人民共和国の Liu Zhongyi 公安副大臣ならびに H. E. Ms. Ma jia 駐ミャンマー中国大使と面会
6.	タン・スエ副首相兼外務大臣 デンマークのコペンハーゲンに拠点を置く国連プロジェクトサービス機関の Ms. Kirstine Damkjaer 副事務局長と面会
7.	タン・スエ副首相兼外務大臣 AHA センター Mr. Lee Yam Ming 事務局長率いる代表団と面会
8.	タン・スエ副首相兼外務大臣 H. E. Dr. Md. Monwar Hossain 駐ミャンマー連邦共和国 バングラデシュ人民共和国大使と面会
9.	ミャンマー連邦共和国 タン・スエ副首相兼外務大臣の招きにより タイの H. E. Mr. Maris Sangiampongsa 外務大臣率いる代表団がミャンマーを訪問
10.	ミャンマー連邦共和国独立記念日 77 周年祝賀会を駐日ミャンマー大使館で開催
11.	ソー・ハン大使 公明党の斉藤鉄夫代表と面会
12.	第 44 回日本アセアンセンター理事会第 2 回会合にミャンマー理事のソー・ハン大使が出席
13.	第 324 回 ASEAN 委員会 (東京) 会合に駐日ミャンマー大使が出席
14.	第 31 回 ASEAN - 中国高級実務者会合に外務事務官出席
15.	ASEAN-ミャンマー高級実務者代表である外務事務官 第 21 回 ASEAN - ロシア高級実務者会合に出席
16.	アジア婦人友好会 (ALFS) の 2024-2025 年度 第 3 回会議にドー・レ・レ・ワーミャンマー大使夫人が出席
17.	ミャンマーは 2024-2025 会計年度に水産物輸出で 7 億ドルの収益を目指す
18.	2023-2024 会計年度 ミャンマーのコメの輸出で US ドル 13 億 3000 万の収益を獲得
19.	ミャンマーの国内投資家が工業部門に 22%以上を投資
20.	ミャンマーの文化遺産に登録されているバガン
21.	2026 年にチンロンスポーツをユネスコ世界遺産に登録するための取り組み

1. ミャンマー連邦共和国国防安全保障会議（1/2025）開催

ネーपीドー／1月31日

ミャンマー連邦共和国の国防安全保障会議（1/2025）がネーピードーの国家統治評議会議長室の会議室で開催されました。

国家統治評議会は、国家の発展の主な原動力である農業、畜産業、工業および電力・エネルギーの振興に取り組むために、農業畜産業開発委員会、工業開発委員会および電力・エネルギー開発委員会を設立したこと、設置された委員会は、国家発展のための重要分野の開発を実施する責任を負っているため、委員会が効果的に活動できるように努力することを求めたいと述べました。

国の将来のために、すべての子供たちが学校に通い、教育を受けられるよう、地方自治体組織、教師、保護者、地域の長老など、あらゆる人々が協力して、奨励、団結、支援などの方法を通じて包括的に取り組む必要があると述べました。

自然災害管理法によると、暴力や武装蜂起により国民が被った損失も自然災害の定義に該当すること、したがって、政府は紛争から逃れた人々に支援を提供すると述べました。

政治的解決は円卓会議での話し合いを通じてのみ、答えを見つけることができるため、和平交渉を常に歓迎し、オープンであり続けると述べました。

我が国の規模と先般収集した国勢調査とを比較すると、人口は少ないと推測できること、国の発展には、適切な人口規模と適切な年間人口増加率が必要であること、したがって、我が国の出生率を高め、死亡率を下げるために、教育と健康への支援を継続的に強化する必要があること、移住に関しても、国の経済状況や政治情勢の安定と進歩に向けて努力しなければならないこと、我が国にふさわしい人口の形成に向け、我が国に適した人口政策を策定し実施していくと述べました。

選挙で投票することは、国民一人ひとりの自由な意思表示であること、投票権を持つすべての人が投票できるよう取り組むことは、国家政府の責任であり、投票するかどうかは各個人の選択であると述べました。

ミャンマーの国事はミャンマー国民によって決定されなければならないこと、政府が実施している改革プロセスや政治情勢については、国際的な圧力やその他の圧力よりも我が国で生じている状況にのみ重点を置いて成功に向けて取り組んでいくこと、自由かつ公正に満ちた総選挙の実施のためには、依然として安定と平和が必要であること、したがって、上記の課題に引き続き迅速に取り組むために憲法の規定に従い、責務の6か月延長の要請を述べました。

その後、国防安全保障会議の全メンバーが、国が現在取り組んでいる状況や政治情勢を踏まえ、緊急事態宣言の延長に対して全会一致で同意し、憲法に基づいて「国全体に発令されている非常事態宣言の期間を2025年2月1日からさらに6か月延長する」旨、発表すると述べ、ミャンマー連邦共和国の国防安全保障会議（1/2025）は閉会しました。



ミャンマー連邦共和国国防安全保障会議（1/2025）開催

2. 国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官

連邦政府業務調整会議に出席しスピーチを表明

ネーपीドー 2月3日

連邦政府の業務調整会議がネーピードーの国家統治評議会議長室の会議室で開催され、国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官が出席しスピーチを行いました。

まず初めに、国家統治評議会議長兼首相が開会のスピーチの中で、国家統治評議会によって再編された政府と地方域および州の首相らが、国家開発事業にスピーディーに継続して取り組めるよう、今回の調整会議を開催したこと、私たちは目標やロードマップを設定し取り組んでいること、平和・安定や経済発展、社会・医療など、あらゆる問題に効果的に対処できるよう設定されていること、これらは国のより良い発展のために実施すべき政府の政策であること、連邦政府の指示に従って、地方域ならびに州の自治体が事業を成功させるために実際に監督する必要があることなどを述べました。

国の GDP 成長にとって農業分野や工業分野、サービス分野は3つの主要分野であること、我が国はASEAN および近隣諸国の中でも GDP の水準が低い国のひとつであると述べました。

農業分野においても、生産能力は他国に比べてまだ弱い状態であること、したがって、農業生産の成長を支援することで、国の GDP も増加するであろうと述べました。

地域特有の農産物の生産を向上させるための研究も必要であること、例えば、我が国で栽培されているマンゴー、イチゴ、プラム、コーヒーやその他の作物を高い品質で生産量を増加させるために研究が必要であると述べました。

同様に、綿花、竹、ゴムなどの工業用作物や、豆、トウモロコシ、ひまわり、ゴマなどの農作物は、海外の市場参入のために生産増加の努力が必要であると述べました。

国民の健康に関しては、教育関係に加えて、自然災害による被害についても原因や復興の状況などを関係省庁の担当者や専門家と話し合い、支援や救援、復興作業などを効果的かつ迅速に行えるよう監督したこと、さらに自然災害管理法では暴力や武装蜂起による民間人の犠牲者も自然災害に該当するため、国として、戦闘から逃れた人々に援助を提供し、リストを作成していること、そのリストに関係地域ごとの避難民全員が含まれるようにすること、リストから漏れている人がいないことを確認するために、体系的に土地調査を実施し、効果的な支援を提供するために協力する必要があると述べました。

選挙に関しては、複数政党制による民主的な総選挙の実施が最終目標であること、総選挙後に誕生する議会においても、民族グループや一般の代表が幅広く含まれるよう取り組むこと、人民代表院、民族代表院、地方域・州代表院の3つの議院の選挙は法律に則って行わなければならないこと、選挙における不正投票を防止すること、有権者が明確かつ簡単に投票できること、投票結果の正確性を確保し、投票の拒否や不正を防止し、透明性を保つために、ミャンマー電子投票機(Myanmar Electronic Voting Machine)を使用する措置が講じられていると述べました。



国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官
連邦政府業務調整会議でスピーチを表明

3. マンダレー宮殿の西壁にあるシーシェー門近くにオリジナルの構造そのままに再建されたシーシェー橋の開通式開催

ネーピードー 2月8日

マンダレー宮殿の西壁にあるシーシェー門近くに、オリジナルの構造そのままに再建されたシーシェー橋の開通式が2025年2月8日午前で開催され、国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官が出席し開会しました。

国家統治評議会議長兼首相がオープニングのボタンを押して橋の記念碑を除幕し、香りの良い水をふりかけました。

このマンダレー城壁の西側にあるシーシェー橋は、ミンドン王の治世中のミャンマー暦1221年に、ミヤ・ナン・サン・チョー黄金宮殿とともに建設され、第二次世界大戦中に戦争の被害を受けたこと、シーシェー橋はマンダレー宮殿の壁の西側の出口にある主要な橋であること、橋は本来の形で建設され、耐久性を維持するよう、国家統治評議会議長兼首相の指示の下、建設工事は軍事工学局によって2024年8月から行われ2025年2月に開通式が無事に開催されたこと、マンダレー宮殿にはそれぞれ4つの方角に門が3つずつ、合計12の門があること、3つの門のうち中央の門には星座が名付けられていること、今回、西側のシーシェー橋を再建することで、国の文化遺産を代表するミヤ・ナン・サン・チョー黄金宮殿が本来の特徴を完全に保つことができるということです。



国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官
オープニングボタンを押して橋の記念碑を除幕



国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官
橋の記念碑に香りの良い水を振りかける様子

4. 連邦レベルの中小零細企業（MSME）製品展示会およびコンテストの調整会議を開催

ネーपीドー 2月5日

連邦レベルの中小零細企業（MSME）製品展示会およびコンテストの開催のための調整会議が、2025年2月5日午後、ネーピードーのオウパタタンティ・パゴダのタバウン敷地内で開催され、中小零細企業開発委員会の委員長である国家統治評議会副議長兼副首相ソー・ウィン国軍副司令官が出席しスピーチを行いました。

まず初めに、中小零細企業開発委員会の委員長である国家統治評議会副議長兼副首相ソー・ウィン国軍副司令官がスピーチの中で、連邦レベルの中小零細企業製品展示会およびコンテストの開催に向けて、さまざまな目的と目標が設定されていること、中小零細企業委員会の設立から今日まで取り組む中で、遭遇した長所や短所、関係省庁と州ならびに地方域レベルの事業の連携、州ならびに地方域同士の連携、事業者同士の連携や経験の共有などにおいて、必要とする事柄があることがわかったこと、製品の違いや価格と品質、梱包様式、技術、輸出の可能性などについて調整し、必要なことを改善することを目的として開催されると述べました。

中小零細企業製品は国内市場だけでなく国際市場にも輸出できなければならないこと、海外への輸出を可能にするには、市場が求めることや文書に関して必要なことを企業主が理解して初めて、事業が順調に進むであろうと述べました。

連邦レベルの中小零細企業製品展示会やコンテストを開催することで、州や地方域の製品を国内市場で輸入代替品として利用できるようになり、海外に輸出するための必要な技術やデータ、証明書などについて、関係省庁とどのように連携して手順を行うべきかをすべての事業主が知ることができると述べました。

中小零細企業委員会の設立以来、進歩は見られるものの、依然として輸出を増やす必要があると述べました。その後、出席者により中小零細企業製品展示会とコンテストの成功のため、関係する分野ごとに説明が行われ、中小零細企業開発委員会の委員長である国家統治評議会副議長兼副首相ソー・ウィン国軍副司令官が必要な措置を調整し、閉会の挨拶ののち会議は終了しました。



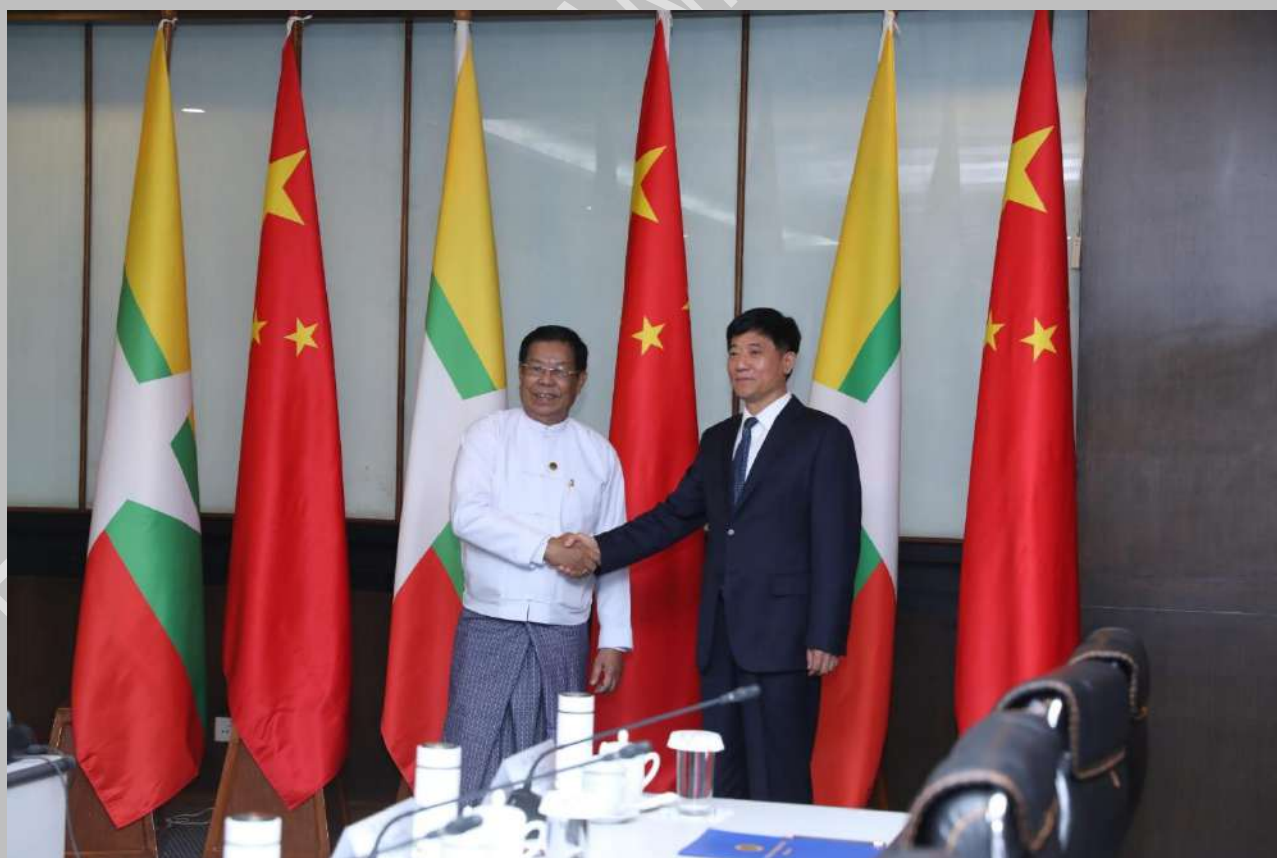
国家統治評議会副議長兼副首相ソー・ウィン国軍副司令官
連邦レベルの中小零細企業（MSME）製品展示会およびコンテストの開催のための調整会議でスピーチ

5. タン・スェ副首相兼外務大臣 中華人民共和国の Liu Zhongyi 公安副大臣 ならびに H.E. Ms. Ma jia 駐ミャンマー中国大使と面会

(2025 年 2 月 14 日/ネーピードー)

ミャンマー連邦共和国タン・スェ副首相兼外務大臣は、中華人民共和国の Liu Zhongyi 公安副大臣ならびに H.E. Ms. Ma jia 駐ミャンマー中国大使とのミャンマー・中国二国間会談を 2025 年 2 月 14 日 14 時にネーピードーの外務省で開催しました。

会談では、ミャンマーと中国の既存の緊密な関係のさらなる強化や、二国間協力プロジェクトの継続的な実施、国境を越えた犯罪の撲滅のための法的協力の促進、国境地域におけるオンラインギャンブルと詐欺ネットワーク撲滅ために両国の関連部門間の協力の促進、地域および国際社会との協力を含むミャンマー、中国、タイの三国間協力の強化ミャンマー、中国、タイの3か国の協力の強化、ミャンマー - 中国国境地域の安定と平和をさらに促進するための継続的な協力などについて、親密かつ率直に意見交換を行いました。



ミャンマー連邦共和国タン・スェ副首相兼外務大臣
中華人民共和国の Liu Zhongyi 公安副大臣と親しく面会



ミャンマーと中国の二国間会談

6. タン・スエ副首相兼外務大臣 デンマークのコペンハーゲンに拠点を置く国連プロジェクトサービス機関の Ms. Kirstine Damkjaer 副事務局長と面会

(2025 年 2 月 6 日/ネーपीドー)

タン・スエ副首相兼外務大臣は、デンマークのコペンハーゲンに拠点を置く国連プロジェクトサービス機関の Ms. Kirstine Damkjaer 副事務局長と 2025 年 2 月 6 日 10 時 30 分にネーピードーの外務省で面会しました。

会談では、UNOPS のミャンマーにおける進行中の活動に関する事項について意見交換し、ミャンマーと UNOPS のさらなる協力の強化について話し合いました。



タン・スェ副首相兼外務大臣 デンマークのコペンハーゲンに拠点を置く国連プロジェクトサービス機関の Ms. Kirstine Damkjaer 副事務局長と面会

7. タン・スェ副首相兼外務大臣

AHA センター Mr. Lee Yam Ming 事務局長率いる代表团と面会

(2025 年 2 月 6 日/ネーपीドー)

副首相兼外務大臣は 2025 年 2 月 6 日 13 時 30 分、外務省の大臣貴賓室にて AHA センター Mr. Lee Yam Ming 事務局長率いる代表团と面会しました。

会談では、Mr. Lee Yam Ming がミャンマーへの人道支援提供に関する AHA センターの今後の計画を説明し、ASEAN の合意 5 項目の第 4 項目の実施プロセスだけでなく、サイクロン「モカ」の被害への対応が滞りなく行われたことに対し、ミャンマーの支援に感謝の意を表すと述べました。

副首相は、AHA センターの尽力に感謝の意を表し、困難が生じているミャンマー国民の真のニーズに応えるために我々は協力する必要があること、支援を必要とするミャンマー国民の長期的な復興に向けて、先頭に立って取り組む必要性を強調しました。その後、副首相は、AHA センターの活動の実施、ならびに人道支援を真に必要とする人々に届けることについて、ミャンマーとして引き続き支援すると述べました。



タン・スェ副首相兼外務大臣
AHA センター Mr. Lee Yam Ming 事務局長率いる代表团と面会

8. タン・スェ副首相兼外務大臣
H. E. Dr. Md. Monwar Hossain 駐ミャンマー連邦共和国 バングラデシュ人民共
和国大使と面会

(2025 年 2 月 7 日/ネーपीドー)

ミャンマー連邦共和国タン・スェ副首相兼外務大臣は、H. E. Dr. Md. Monwar Hossain 駐ミャンマー連邦共和国 バングラデシュ人民共和国大使と 2025 年 2 月 7 日 10 時にネーピードー外務省で面会しました。

会談では、さらなる緊密な経済協力の推進を含む、二国間関係の強化について意見を交換し、両国間の貿易・投資拡大の見通しについて話し合いました。



タン・スエ副首相兼外務大臣

H. E. Dr. Md. Monwar Hossain 駐ミャンマー連邦共和国 バングラデシュ人民共和国大使と面会

9. ミャンマー連邦共和国 タン・スエ副首相兼外務大臣の招きにより

タイの H. E. Mr. Maris Sangiampongsa 外務大臣率いる代表団がミャンマーを訪問

(2025 年 2 月 22 日/ネーपीドー)

ミャンマー連邦共和国 タン・スエ副首相兼外務大臣の招きにより、タイの H. E. Mr. Maris Sangiampongsa 外務大臣率いる代表団が 2025 年 2 月 21 日から 22 日までミャンマーを訪問しました。

タイの H. E. Mr. Maris Sangiampongsa 外務大臣は、2025 年 2 月 21 日午前、国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官を表敬訪問し、午後にはタン・スエ副首相兼外務大臣と面会し、ミャンマー-タイ二国間会談を Jasmine Nay Pyi Taw Hotel で行いました。

上記会談では、ミャンマー-タイ間の既存の二国間関係のさらなる促進や、あらゆる分野にわたる協力の継続的な推進、特に違法な国境貿易や違法薬物、武器の密売、オンライン詐欺、人身売買や国際犯罪などの違法行為の撲滅における協力のよりいっそうの強化を含む、地域・国際面での緊密な協力などについて意見交換を行いました。副首相兼外務大臣が、平和をもたらす選挙を実施するための政府の取り組みを含んだミャンマーの現状について説明しました。

タイの H.E. Mr. Maris Sangiampongsa 外務大臣率いる代表団は、2025 年 2 月 22 日夕方、ネーピードー国際空港からタイのバンコクに向けて出発しました。

訪問中、タイの外務大臣と代表団は、2025 年 2 月 21 日夕方、ネーピードーの仏教庭園敷地内のマラウィザヤ大仏を参拝し、同日夕方、ネーピードーの Horizon Lake View にて副首相兼外務大臣主催のワーキングディナーで、もてなしを受けました。



タン・スェ副首相兼外務大臣
タイの H.E. Mr. Maris Sangiampongsa 外務大臣と親しく面会



ミャンマー-タイ間の違法行為撲滅協力強化推進会議を開催

10. ミャンマー連邦共和国独立記念日 77 周年祝賀会を駐日ミャンマー大使館で開催

(2025 年 2 月 7 日 / 東京)

ミャンマー連邦共和国独立記念日 77 周年祝賀会が、2025 年 2 月 7 日（金曜日）午前 11 時に駐日ミャンマー大使館のエヤワディホールで開催されました。

祝賀会に、ASEAN 各国大使館の大使夫妻ならびに駐日各国大使館の大使・代理大使夫妻、大使館次席や外交官、武官、日本の参議院・衆議院の国会議員の方々、日本とミャンマーの友好協会などの関係者、アジア婦人友好会（ALFS）、生け花インターナショナル、東京ウィメンズクラブなど婦人会の役員のみなさま、日本企業の代表者や役員の方々、日本アセアンセンターの平林国彦事務総長ならびに関係者の方々、神戸ならびに名古屋のミャンマー名誉領事、日本在住のミャンマー人の方々、ミャンマー政府奨学生および民間の留学生、日本の大学教授や学生など、招待客合計 300 名を超えるゲストが出席されました。

祝賀会に、防衛省・自衛隊の岩崎茂 元統合幕僚長、渡辺博道 元復興大臣ならびに新妻秀規公明党参議院議員が特別来賓として出席されました。

祝賀会では、ソー・ハン駐日ミャンマー大使がミャンマー連邦共和国独立記念日77周年祝賀会のスピーチを行い、ミャンマーの独立闘争の歴史の概要や、ミャンマーと日本との長年にわたる友好関係の構築、ミャンマーの政治や経済の発展状況、国内平和の確立、ミャンマーと日本との貿易・投資状況などについて述べ、さらに両国と両国民の利益のために既存の友好関係を今後も強化していくと述べました。

その後、防衛省・自衛隊の岩崎茂 元統合幕僚長、新妻秀規公明党参議院議員がそれぞれ祝辞を述べられました。続いて、渡辺博道 元復興大臣が祝辞を述べられ、乾杯、集合写真の撮影となりました。

その後、ミャンマー大使館よりご来賓のみなさまに、ミャンマーの伝統料理モヒンガーやミャンマーのお茶の葉のサラダ、ミャンマーのお菓子、ミャンマーミルクティーなどの料理が振る舞われ、祝賀会は13時に順調に閉幕しました。



独立記念日77周年祝賀会に出席したゲストに対し大使夫妻より歓迎



国旗に敬礼



独立記念日 77 周年祝賀会でソー・ハン大使よりスピーチ



独立記念日 77 周年祝賀会に出席された特別ゲストと記念撮影



ミャンマー料理でおもてなし



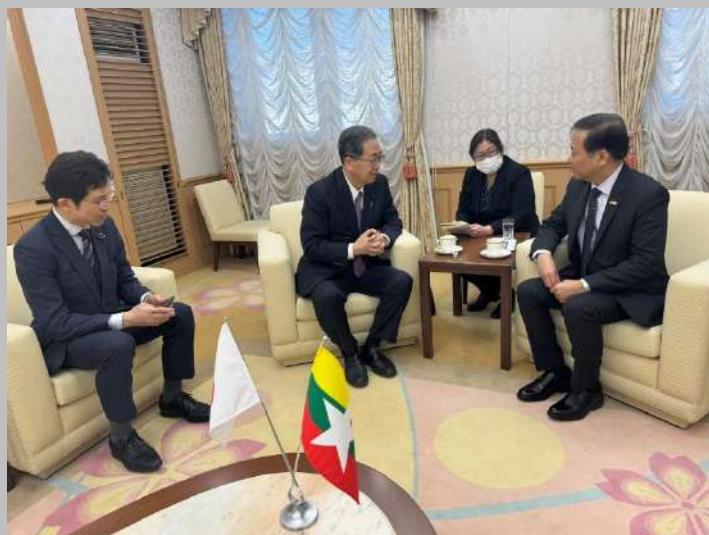
ミャンマー大使館職員と武官室職員が共に記念撮影

11. ソー・ハン大使 公明党の斉藤鉄夫代表と面会

(2025年2月5日／東京)

ソー・ハン大使は、2025年2月5日（水曜日）午前9時45分に公明党の斉藤鉄夫代表と公明党本部で面会しました。

会談では、ソー・ハン大使よりミャンマーの政治情勢について説明がなされ、ミャンマーと日本の関係や、両国間の友好と協力のさらなる促進について、親密かつ率直に意見交換を行いました。



ソー・ハン大使 齊藤鉄夫代表と面会



記念撮影

12. 第44回日本アセアンセンター理事会第2回会合に
ミャンマー理事のソー・ハン大使が出席

(2025年2月21日/東京)

日本アセアンセンターの第44回理事会の第2回会合が2025年2月20日に東京のOnarimon Bellesalle Tower会議場で開催され、会合に日本アセアンセンターのミャンマー理事であるソー・ハン大使率いる代表団が出席しました。

上記会議は、ブルネイの理事である Dr. May Fa' ezah Ahmad Ariffin が議長を務め、ASEAN 加盟国の理事ならびに日本の理事である外務省アジア大洋州局南部アジア部の宮本新吾部長、日本アセアンセンターの平林国彦事務総長と各分野の担当者、国土交通省の担当者、合計 46 名が出席しました。

会議では、2024 会計年度中に実施された事業の進捗報告や、2025 会計年度に日本アセアンセンターが実施する事業計画や予算配分、日本アセアンセンター設立協定第 2 次改正の採択に向けた国内手続きの状況等について話し合いました。

日本アセアンセンターの第 44 回理事会の第 2 回会合は夕方に閉会しました。



日本アセアンセンターの第 44 回理事会の第 2 回会合 2025 年 2 月 20 日に東京の Onarimon Bellesalle Tower 会議場で開催



ミャンマー理事のソー・ハン大使

日本 ASEAN センター設立協定第 2 次改正の採択に向けた国内手続きの状況等について協議

13. 第 324 回 ASEAN 委員会（東京）会合に駐日ミャンマー大使が出席

（2025 年 2 月 27 日/東京）

東京を拠点とする ASEAN 加盟国の大使で構成される ASEAN 委員会（東京）の第 324 回会合が 2025 年 2 月 26 日に ASEAN 委員会（東京）の議長である H.E. Dato' Shahril Effendi Abd Ghany 駐日マレーシア大使の主催により、マレーシア大使館で開催され、ソー・ハン駐日ミャンマー大使が ASEAN 加盟国の大使や臨時担当者らとともに出席しました。

会合では、日本国内の動向や地域の発展状況、さらに ASEAN 委員会（東京）の主導のもとで開催される活動などについて意見交換を行いました。また、この会合に関連して日本国外務省 2025 年国際博覧会の羽田浩二事務局長より、日本で 2025 年 4 月から 10 月まで開催される 2025 年日本国際博覧会（大阪・関西万博）の準備状況などについて説明がなされました。

その後、マレーシア大使より ASEAN 各大使ならびに羽田浩二事務局長に昼食がふるまわれました。昼食会では、ASEAN 各国大使と羽田浩二事務局長が ASEAN 諸国と日本との協力関係の更なる強化などについて意見交換を行いました。



第 324 回 ASEAN 委員会（東京）会合を開催



ミャンマー大使 議論に参加



2025 年国際博覧会（大阪・関西万博）の羽田浩二事務局長からの説明



記念写真撮影

14. 第31回 ASEAN - 中国高級実務者会合に外務事務官出席

ASEANの対外関係として重要な、ASEAN・中国対話関係の第31回 ASEAN-中国高級事務者会合が、共同議長であるASEAN議長国マレーシアと中華人民共和国の主催で2025年2月12日から14日まで中華人民共和国寧波市で開催されました。

会合には、マレーシアと中華人民共和国の招待により外務事務次官率いるミャンマー代表団が出席しました。

会合では、2024年10月にラオスで開催された第27回 ASEAN・中国首脳会議のフォローアップのプロセスや、ASEAN・中国協力行動計画（2021-2025年）の実施状況、ASEANの3つの柱を通じた中華人民共和国との協力とそれに従うべきプロセス、地域的・国際的な問題や2025年に開催されるASEAN・中国外相会議ならびに第28回 ASEAN・中国首脳会議に提出する課題などについて協議しました。



集合記念撮影

15. ASEAN-ミャンマー高級実務者代表である外務事務官 第21回ASEAN - ロシア高級実務者会合に出席

(2025年2月19日/ジャカルタ)

ASEAN - ミャンマー高級実務者代表である外務事務次官は、2025年2月18日から19日までインドネシア ジャカルタのASEAN事務局で開催された第21回ASEAN - ロシア高級実務者会合で、ロシア外務省のH. E. Andrey Rudenko 外務副大臣と共に共同議長を務めました。会議にはASEAN各国の代表やASEAN事務局の副事務総長らが出席しました。

会議では、ASEAN とロシアの動向や、ASEAN - ロシア包括的行動計画（2021－2025）の実施についての現状、本年中に行われるASEAN - ロシア間の優先協力プログラムなどについて意見を交換しました。

会議後に、ASEAN事務局の来賓室で行われている“ASEAN-Russia: prospects of cooperation in civilian nuclear energy and technologies”写真展の式典でミャンマー事務次官とロシアの外務副大臣が開会のスピーチを行いました。



第 21 回 ASEAN-ロシアの高級実務者会合で高級実務者代表らによる記念撮影

16. アジア婦人友好会（ALFS）の 2024-2025 年度 第 3 回会議に ドー・レ・レ・ワーミャンマー大使夫人が出席

アジア婦人友好会（ALFS）の 2024-2025 年度の第 3 回会議が 2025 年 2 月 12 日、東京の衆議院第一議員会館多目的ホールで開催され、大使館側代表としてドー・レ・レ・ワー大使夫人率いる代表団が出席しました。

会議には ALFS 仲宗根 真理子会長、副会長、専務理事長および理事ならびに駐日大使館の大使夫人、担当者など代表者合計 45 名が出席しました。

会議では、2024 年のチャリティーバザーの収益金の各国大使館への分配、大使館から自国への寄付金が寄付された記念写真のパネルなどが 2025 年 2 月 10 日の ALFS 新年会に展示されたこと、さらに 2025 年のチャリティーバザーに関連して実施される作業計画について話し合いました。

その後、大使館側代表であるドー・レ・レ・ワー大使夫人が、2025 年 4 月 23 日に開催されるにチャリティーバザーの開催についてや、バザーにはミャンマー、マレーシア、バングラデシュ、カンボジア、ラオス、マーシャル諸島、ミクロネシア、フィジ

一、韓国、中国、フィリピン、タイ、シンガポール、スリランカ、ベトナム、ネパール、パキスタン、パプアニューギニア、サモア、インド、インドネシア、ニュージーランド、モンゴルの合計 23 の大使館が含まれ、今年すべての大使館と協力して成功するよう希望していると述べました。

アジア婦人友好会（ALFS）の 2024-2025 年度第 3 回会議は午後 1 時 30 分に順調に閉会しました。



仲宗根真理子 ALFS 会長夫人より開会の挨拶

EMBASSY



ALFS 専務理事長が 2025 年チャリティーバザーについて詳しく説明



大使館側の代表のドー・レ・レ・ワー大使夫人が 2025 年のチャリティーバザーへ大使館側の参加について述べる



中国大使夫人が議論に参加

17. ミャンマーは 2024-2025 会計年度に水産物輸出で 7 億ドルの収益を目指す

ミャンマー漁業連盟ならびにミャンマー水産物生産者・輸出業者協会によると、ミャンマーは 2024-2025 会計年度に海外への水産物輸出で 7 億ドルの収益を目指しています。

ミャンマーは海外に海産物を空輸や海上および陸路で輸出しています。ミャンマー漁業連盟ならびにミャンマー水産物生産者・輸出業者協会は、2024-2025 会計年度の水産物輸出による収益は US ドル 7 億 3500 万に達すると予測しています。

ミャンマーは 2024-2025 会計年度の 4 月から 12 月までの間に、US ドル 5 億 2100 万相当の水産物を海外に輸出しました。ミャンマーは毎月平均 US ドル 6500 万相当の水産物を海外に輸出しています。ミャンマーの水産物は主に海路で海外に輸出されており、タイには国境ゲートを通じて、また中国へは主に空路で輸出されています。

ミャンマーは水産物を中国タイ、日本、ヨーロッパ諸国や近隣諸国に主に輸出しています。

Source: The Global New Light of Myanmar (2-2-2025)



18. 2023－2024 会計年度 ミャンマーのコメの輸出で US ドル 13 億 3000 万の収益を獲得

2023－2024 会計年度に総額 US ドル 13 億 3000 万相当のミャンマー産のコメと割れ米 276 万 7414 トンを 49 カ国に輸出したとミャンマー米穀連盟より発表がありました。

新規コメ輸出企業が海外にコメを輸出する際に、良質であるコメを輸出することならびに国際基準を満たすことができるように、ミャンマー米穀連盟は知識の普及と研修を行っています。

2023 年 12 月末時点、ミャンマー米穀連盟の会員企業は 980 社であり、2024 年 12 月末には 1196 社まで増加しました。ミャンマー米穀連盟はコメの輸出を希望する企業に市場連携と事業支援を提供しています。

Source: The Global New Light of Myanmar (3-2-2025)



19・ミャンマーの国内投資家が工業部門に 22%以上を投資

2025年1月31日までにミャンマー国内の投資家は工業部門に22%以上と最も多く投資しております。住宅・建設部門で20%超で2番目、サービス部門で15%超で3番目に多く投資をしていると投資・企業管理局より発表がありました。

さらにミャンマーの国内投資家による投資は、運輸・通信部門の国内投資総額の12%以上を占めており、8.6%以上がホテル・観光部門に投資されています。同様に、ミャンマーの投資家は建設分野、電力分野、工業団地建設・開発分野、畜産・水産養殖業金属分野、農業分野や石油・天然ガス生産分野にも投資を行っています。

投資・企業管理局は、ミャンマー国内の投資家が12の分野で25兆810億チャット相当の投資事業1702件の投資を行ったと発表しました。

ミャンマー投資委員会は、プロジェクトを承認する際に、環境や社会に害を与えない責任ある事業になるために関係部門と連携・確認をして許可を出しています。

投資・企業管理局は、企業により良いサービスを提供すること、民間セクターの発展の促進、地域的および国際的な経済協力に参加すること、新興企業や有望企業を支援すること、円滑な投資環境を整えることなどを通じて、国内外の投資を増やし、投資の期待に応え、組織の体制と効率性や従業員のパフォーマンスの向上などを重点的に行っています。

Source: The Global New Light of Myanmar (18-2-2025)



20. ミャンマーの文化遺産に登録されているバガン

ミャンマーの文化遺産があるバガン地域は、世界遺産登録地域として、2019年6月30日から7月10日までアゼルバイジャンのバクー市で開催された世界遺産委員会第43回会議で登録されました。ユネスコ管轄下の世界遺産委員会は、2014年にピュー市の3つの古代都市を世界遺産に指定したため、バガンはミャンマーで2番目の世界文化遺産となりました。

世界文化遺産センターの諮問団体である国際記念物遺跡会議（ICOMOS）は、バガンを独特で比類のない文化遺産地域として推薦しました。西側のエヤワディ川と東のトゥイン山の間には、9世紀から13世紀にかけて栄えたバガン古代文化圏の仏塔や、建築物、さらに歴史ある宮殿などが点在しており、過去の歴史の雄大な情景に出逢うことができます。

バガン王朝の時代には、上座部仏教は強固な基盤で発展し経済も良好でした。国が安定・平和、繁栄していたため、興隆した宗教に多大な献身的な思いを込めて、素晴らしい建築作品や宗教的建造物を建立しました。バガンにある仏塔の数については、ミャンマーの数字の覚え方として「馬車の車軸音が4446塔」「ウィンウィン・ティ・リャン（輝き）が4474塔」などと言い、数えきれないことが表されています。現代の考古学研究が収集した記録によれば、バガンの塔の数は「赤レンガの大きなお寺 - 2217」と記録されています。

何千年も前から存在してきたバガンは、いつの時代も自然災害や人間による破壊に見舞われてきました。特に、記録によると 900 年の歴史の中で最悪と言われる、1975 年 7 月 8 日に発生した地震によるバガンの古代文化遺産地域の被害は甚大で、かけがえのないものを失いました。

その地震ほどではありませんでしたが、2016 年 8 月 24 日に発生した地震はバガンにさらなる被害をもたらしました。また、気候の変化によってもバガンの仏塔は影響を受けており、ミャンマーの世界文化遺産であるバガンを、継続的な管理を通じて末長く維持できるようミャンマー政府は尽力しています。



バガンの美しい景色



シュエスィーコン・パゴダ



バガンの美しさとミャンマーの文化



夕方、日の入り時の美しいバガンの仏塔群

21. 2026年にチンロンスポーツをユネスコ世界遺産に登録するための取り組み

ミャンマーチンロン連盟（MCF）は、人気のあるミャンマーの伝統的なチンロンスポーツを2026年にユネスコ世界遺産に登録するよう活動しています。その活動を支援するためにミャンマーチンロン連盟（MCF）は、伝統的なチンロンスポーツに関する歴史的な情報を収集し、文書化する委員会を結成したと発表しました。

収集された情報には、チンロンスポーツ以外にチンロン関連の道具や文化・歴史的な証拠も含まれています。チンロンスポーツは、つま先、足の裏、膝、手のひら、足のかかとなどでボールを投げたり蹴ったりします。

チンロンスポーツは、ミャンマーの国民のみならず外国人にも人気の伝統的なスポーツで、ピュー時代から始まったと考えられています。特徴として個人やチーム間で競争することだけでなく、チンロンを地面に落ちないようにプレーヤーが一緒に力を合わせて取り組みます。



ミャンマーの伝統的なチンロンをチームでプレー



チンロン パフォーマンス



チンロン 籐の輪でパフォーマンス